

WAYプロジェクト（校内道德教育推進委員会）レポート・2

2019・9／11（水）

1・活動の経過（9月1日～11日）

9月 5日（木）第3回WPミーティング

9月10日（火）神戸、須磨友が丘高校・授業「臨床哲学」見学（松浦・鶴田）

9月11日（水）第4回WPミーティング



2・活動の報告

①須磨友が丘高校見学の感想

②WPミーティングの議論から

・第3回（9月5日）

1／大正中道德教育全体目標の素案が出された。以降、プロジェクトで検討しながら全体に提案する。

2／学習指導要領に提示されている「道徳的諸価値」の「内容項目（22項目）」について。これは中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編（以降「解説」とする）の第2節 内容項目指導の観点（P24）に示されているものである。

ここに示されている大きな4つのカテゴリーとして「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」がある。この4つに対応する形で以下の内容が示される。

- 「A1 自主、自立、自由と責任」
- 「A2 節度、節制」
- 「A3 向上心、個性の伸長」
- 「A4 希望と勇気、克己と強い意志」
- 「A5 真理の探究、創造」
- 「B6 思いやり、感謝」
- 「B7 礼儀」
- 「B8 友情、信頼」
- 「B9 相互理解、寛容」
- 「C10 遵法精神、公德心」
- 「C11 公正、公平、社会正義」
- 「C12 社会参画、公共の精神」
- 「C13 勤労」
- 「C14 家族愛、家庭生活の充実」
- 「C15 よりよい学校生活、集団生活の充実」
- 「C16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」
- 「C17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」
- 「C18 国際理解、国際貢献」
- 「C19 生命の尊さ」
- 「D20 自然愛護」
- 「D21 感動、畏敬の念」
- 「D22 よりよく生きるために」

また「解説」ではそれに続き、それぞれの価値について、「内容項目の概要」と「指導の要点」という形で解説されている。WPでは、ここに記されている一箇一個の文言を本校の生徒の実態、その背景に横たわる家庭、地域の生活や子育て文化の在りようから読み解いていく作業を始めることにした。

この作業を経て22の道徳的価値についての大正中としての指導指針をつくりあげようと思う。もちろん実践しながらのOJTであるが。

以下、議論の中で本校の実態に関わる部分を何点か紹介する。

- A 1 「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」

生徒間でトラブルが生じる。ささいな言葉のやりとりからのトラブルが大きな問題に発展し、本人同士の指導だけでは済まず、家庭にまで報告しなければならない時もある。そんな時、本校の教員が親御さんから聴き、耳に残る言葉として「吐いたつばは飲みこめない」というのがある。また生活態度の指導などでは「親はあれこれ言わない。しかし自分で口をきった以上はやれ」という言葉をよく聴く。「自分の言動に責任を持つ」ということに強いこだわりをもつ教育文化が醸成されているのを感じる。同時に、自己規律にこだわる部分を伸ばしながら、他者の「自律」や社会規範との折り合いをどうつけていくかが大きな課題でもある。

- A 2 「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事」

「スマホ」と「早寝早起き朝ご飯」・・・本校生徒の大きな課題である。

これらの課題をこれまでの「生活指導」の視点に加えて、このようなA 2の価値理解からのアプローチを持とう。

- A 3 「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追究すること」

本校では「自分を語る」取組を大切にしているが、まさにこの価値につながる部分である。これまでの特別活動の枠から、道徳教育からこの活動を組み立てることを考えていこう。

- A 4 「より高い目標を設定し、その達成を目指して、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」

A 5 「真実を大切にし、真理を探究して新しい物ものを生み出そうと努めること」

B 6 「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」

「思いやり」「感謝」という道徳的価値を考えると、まず、キーワードとなるのは「相互理解」という言葉ではないか、という意見がでた。「理解する」というのは、その行為の主語は「私」であるが、それでは、「私」は一体なにを理解するのか・・・？ある参加者が一例を出した。「卒業生が自立して一人暮らしをしたいと言ったんです、そのとき、お父さんがおまえにはまだ無理や。と反対しはったんです。」「お父さんの気持ちは卒業生に通じず、互いの気持ちを理解し合えることはできませんでした…」この事例に対して「気持ちを理解する」とは具体的にどういうことであるのかについて話し合った。参加者の意見は、「気持ち」とは、その時その時のその人の心に浮かんできた思い・考え・意見・願いなどである。理解しなければならないのは、その気持ちが出てきた「理由」ではないか。その気持ちが浮かぶことになった、その人の経験や状況（その人にまつわる出来事）ではないのかという話になった。また、それらに対する「共感」があったら互いにわかりあえるのでは？という意見もでた。

B 7 「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること」

礼儀とは、「きまり、規範」のことであり、あいさつしたり、目上の人に敬語を使うなどといった行動様式のことである。それでは…ここ、大正校区という地域で培われてきた「行動様式」の特色には何があるだろうか、それぞれ意見を出し合った。各参加者からは、「人に作ってもらったものは、残さず食べる。」「吐いたつばは、のむな。」などが出された。「義理、人情」を大事にし

てきた地域柄でもあるが、最近はそれも薄れつつあるのではないかという意見も出た。ここのように、一口に礼儀と言っても、その地域の慣習やその人の生き方までが表れるものだという意見も出た。

B 8 「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」

まず、「真の友情」とは何かということについて意見を出し合った。学習指導要領の中には「相手に賭ける」という一文がある。これはどういうことなのだろうか？もし、友達に裏切られた時でも、「あいつが裏切ったのは仕方がない、あいつに賭けたのは自分やから」と言えることではないか、という意見が出た。その後、一人の参加者から学生時代の経験談が出た。「見本になる例とは言えないけれど、生身の話をしたのであえて言います。ある時、他の集団と喧嘩になった。その途中で、一緒にいると思っていた仲間のひとりがいなくなってしまった。俺を見捨てて逃げたな…とっていると、まだそこにいた。厳しい状況に置かれた時に、離れないのが本当の友だちだと、あの時ほど思った瞬間は人生でない。しかし、分別もつき、責任ある大人になって振り返った時、あのような危ない状況を共にすることを「友情」だとは、子どもには伝えられない。

B 9 「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」



ここまできて、時間もだいぶ過ぎ全員疲れてきた。先ほどのB 6やB 8にも関わる大きな話なので、これについてはまたゆっくり考えていこうという話になった。